

令和5年度事業について

I 啓発活動の概要

少子・高齢化、国際化、情報化の急速な進展、人々の価値観や生き方の多様化などに伴い、人権課題は複雑化・多様化しています。インターネットによる人権侵害、職場や学校でのいじめ等の課題に加え、外国人や性的マイノリティの人権、近年では新型コロナウイルスの感染者やその家族、医療従事者等に対する誹謗中傷や差別的な扱いなど、様々な人権問題が後を絶ちません。

「人権に関する県民意識調査(令和5年度)」の結果をみると、人権に関して、知識としての理解は県民に広まりつつあるものの、年代等により人権意識に差があり、また自身の問題として理解し、行動に結びつけているかという点では、いまだ十分とは言えない傾向がうかがわれます。

そのため、令和5年度は、私たち一人ひとりがお互いの人権の尊重を感性として育み、日常生活の中で人権尊重が自然に態度や行動として表れるよう、創意工夫をこらした啓発活動を推進するとともに、幅広い世代(特に若年層)に対して、接する機会の多いインターネット等の啓発媒体の特性を活かした啓発活動を行うことが重要と考え、県内各市町、人権関係諸団体はもとより県民の参画と協働のもと、「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」に基づき、「ひろげよう こころのネットワーク」をスローガンに、「人権文化をすすめる県民運動」を推進し、①人権に関する理解や認識を深める人権啓発を進める、②人権を身近に感じ、一人ひとりの感性に訴える人権啓発を進める、③幅広い世代(特に若年者)に対する人権啓発活動の充実を図る、の3点を活動の重点とした人権啓発事業を積極的に展開しました。

II 公益目的事業

1 研修事業

(1) 県職員研修の実施

県職員を対象とした職階別研修(幹部職員、推進員・監督職員等)を実施した。

・実施回数 2 回(一部オンライン開催)

区分	研修会	R 5 参加人数	R 4 参加人数
県	幹部職員研修 (12 月 4 日人権のつどい)	351 人	268 人
	人権研修推進員及び監督職員合同研修 (7 月 24 日～8 月 31 日) ※オンライン 人権啓発ビデオ配信は実施期間中の毎週火曜日及び木曜日 ※10 時 00 分～16 時 00 分	906 人 (内訳:本庁 614 人、 県民局 292 人)	1,074 人
	合計	1,257 人	1,342 人



※ オンラインで開催した研修会のアンケート総合評価では、「非常に良い」「良い」との回答が 74.7% ありました。(前年度は 78.1%)

(一社)ENGINE 代表 前田 良

(2) 市町職員研修の実施

市町の人権啓発担当者を対象とした研修を実施した。

・実施回数:3回

区分	回	R 5 (実施日)	講 義	R 5 参加人数	R 4 参加人数
市町	第1回	5月30日	・講義Ⅱ「人権問題に係る現状と課題」 県民生活部総務課人権推進室 ・講義Ⅲ「SOGIE の現状と課題～これからの 取組みについて」 (一社)ENGINE 代表 前田 良 ・グループ協議「人権研修を実り多きもの にするために」 (公財)兵庫県人権啓発協会	72人	71人
	第2回	12月4日	「人権のつどい」として実施	35人	16人
	第3回	1月29日	「人権啓発ビデオの活用法について」	72人	72人
	合 計			179人	159人

(3) 企業人権啓発研修の実施

企業の経営者・人権担当者等を対象とした研修を実施した。

・実施回数:3回

R 5 開催回数	R 5 参加人数	R 4 開催回数	R 4 参加人数
3回	195人	3回	148人



回	開催日	参加者	開催場所	講義内容等
第1回	9月26日	77人	ホテルクラウンパレス 神戸	「全員参加型経営“I ビジョン経営“～シン(心) インセンティブ制度～」 講師 清川 卓二 (清川メッキ工業株式会社 取締役副社長)
第2回	2月6日	22人	のじぎく会館	ハラスメント最新事情ーあなたの理解で大丈夫 ですか？ー 講師 金子 雅臣 (一社)職場のハラスメント研究所 代表理事)
第3回	2月14日	96人	ホテルモントレ 姫路	「“ビジネスと人権”に関わる課題から～公正採 用と人権、LGBT の理解と配慮支援について～」 講師 堀井 悟 (大阪企業人権協議会 講師)

(4) 講師派遣

① 特定職種従事者研修への講師派遣

教職員、警察職員、消防職員、医療・保健関係従事者、福祉関係従事者など、高い人権意識を身につける必要のある職種を対象とした研修に講師を派遣した。

R5 開催回数	R5 参加人数	R4 開催回数	R4 参加人数
19回	1,550人	17回	1,045人

② 住民研修や企業研修等への講師派遣及び紹介

市町や企業、団体等の依頼に応じ、講師の派遣及び紹介を行った。

R 5 開催回数	R 5 参加人数	R 4 開催回数	R 4 参加人数
65 回	4,866 人	80 回	5,053 人

(5) インターネット・モニタリング事業の実施

インターネットでの差別を助長するような悪質な書き込みのモニタリングを実施するとともに、市町職員研修を実施した。

・実施回数:2回

回	R 5 (実施日)	講義内容	R 5 参加人数	R 4 参加人数
第1回	5月30日	「インターネット上の人権侵害等、違法・有害情報における課題と関係者の対策」 講師：違法・有害情報相談センター センター長 石原 友信	71 人	71 人
第2回	1月29日	①演題：インターネット上の権利侵害の実態と対策 講師：唐澤 貴洋（法律事務所 Steadiness） ②各市町情報交換会 ・モニタリング事業の実施状況や現状の課題について情報交換する。	63 人	70 人
合 計			134 人	141 人

※第1回市町研修およびインターネット・モニタリング事業研修アンケートの総合評価によると、「非常に良い」「良い」との回答が88.1%あり、概ね満足度の高い結果となった。（前年度は92.7%）

2 啓発事業

(1) 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2023 in あしや」の開催

「人権文化をすすめる県民運動」を推進するために、推進強調月間である8月に人権啓発フェスティバルを開催した。令和5年度は芦屋市において、蓮池薫氏による講演会やファミリーふれあいイベント等を実施した。

- ① 開催期日 令和5年8月26日(土)
- ② 開催場所 芦屋市民センター
- ③ 参加者 約1,100人(うち講演会動画配信視聴者51人)
- ④ 内容
 - ・人権講演会「夢と絆〜『北』での二十四年間、そして“今”」
蓮池薫(新潟産業大学経済学部特任教授・拉致被害者)
 - ・オープニングアクト(揮毫パフォーマンス)、ファミリーふれあいイベント、障害者スポーツ体験、人権啓発パネル展、子ども多文化共生イベントなど

ア オープニングアクト 揮毫パフォーマンス

県立芦屋高校書道部・芦屋市立山手中学校吹奏楽部



イ オープニングセレモニー



ウ 人権講演会 蓮池薫(新潟産業大学経済学部特任教授・拉致被害者)

「夢と絆〜『北』での二十四年間、そして“今”」



エ ステージ事業



ふれあいトーク・ステージ

小林ひょうご人権大使と芦屋市内高校生



ファミリーふれあいイベント

「らんま先生eco実験パフォーマンス」

(2) 「人権のつどい」の開催

毎年「人権週間の意義」を広く県民に周知し、人権意識の普及・啓発を図るために「人権のつどい」を開催している。令和5年度は、のじぎく文芸賞・HYOGO 人権啓発動画コンテスト表彰式、人権講演会を実施した。

① 開催期日 令和5年12月4日(月)

② 開催場所 兵庫県看護協会2階 ハーモニーホール

③ 参加者 351人 ※オンライン視聴総再生回数約593回

④ 内容 開会行事及び表彰式

- ・小林祐梨子ひょうご人権大使あいさつ
- ・人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」表彰式
- ・「HYOGO 人権啓発動画コンテスト」表彰式

ハートフル人権ミニコンサート

- ・出演者：鳳歌80、国際女性アンサンブル(NPO 法人国際音楽協会所属)

曲目：春暁(孟浩然)、静夜思(李白)

人権講演会

- ・演題：“自分の性”で生きること

講師：藤井 航(公認心理師)

ア 開会行事・表彰式



小林祐梨子ひょうご人権大使による挨拶



「HYOGO 人権啓発動画コンテスト」表彰者

イ ハートフル人権ミニコンサート



ウ 人権講演会



※当日参加者アンケートでは、ハートフル人権ミニコンサートは「満足だった」が 64.8%、人権講演会は「満足だった」が 62.0%、また「今後行うべきである」との回答が 100%であった。研修(県職員・市町職員)アンケートではハートフル人権ミニコンサートは「満足だった」が 91.3%、人権講演会は「満足だった」が 90.2%、また「今後行うべきである」との回答が 100%であった。

(3) 人権総合情報誌「ひょうご人権ジャーナルきずな」の発行

人権に関する様々な問題や課題について、専門家等の寄稿や県内各地における実践活動の取材、「ふれあいサロン」コーナーへの読者感想の掲載等により、県民との双方向性を持たせた情報誌として、ひょうご人権ジャーナル「きずな」を発行・配布し、タイムリーな情報を県民に提供した。

- ① 発行回数等 年 6 回(隔月刊) 毎奇数月 15 日発行 毎回 25,500 部
- ② 構成 12 ページ
- ③ 主な配布先 市町人権担当部局、県社会福祉協議会等の人権ネットワーク関係機関・団体、公共施設、銀行、郵便局、理容・美容室等



11・12月号



1・2月号

※11・12月号には、視覚障害のある人に「きずな」を活用いただけるよう、音声コードを印刷した。

また、点字版で1・2月号の記事内容を200部発行した。読者アンケートでは、「きずな」を通して、人権問題についての関心や理解が深まったとの回答が100%であった。

(4) 「人権啓発ビデオ」の企画・制作

様々な人権課題を映像で提示し、人々の感性に訴えかけることにより、豊かな人権意識を身につけることを目的に、各種の人権研修会や学習会等での教材となる人権啓発ビデオ「大切なひと」（テーマ：「ネット社会における部落差別と人権～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～」）を企画・制作した。



【作品内容】

この物語の主人公・愛依は、学友の大哉がインターネットに投稿する動画が、被差別部落について差別的であることに気づきながらも言い出せずにいた。

幼少期に可愛がってもらった綾女の住居が動画内において差別を助長する内容で晒されたことをきっかけに、愛依は動画を削除するよう告げ、過去に綾女にしてしまった差別につながるような自らの過ちとも向き合う。

現代社会におけるインターネットは利便性が高く、SNS や動画投稿サイトなどを通して自由に意見表明することができるのが特徴である。一方で、インターネット上では他者からの評価が自身の評価と誤認し、部落差別・外国人差別といった偏見や差別を助長するような情報を発信する行為がみられる。

ときに投稿者自身も第三者から誹謗中傷を受けることがあり、現在深刻な人権問題となっており、インターネット上の一部の情報が、誤った認識や差別意識を助長すること、表現の自由を逸脱した許されない行為であると気づく大切さ、差別されている当事者が訴え続けるという負担を強いる社会構造の実態について理解するとともに、差別のない社会、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作した。

【出演者】山口まゆ、田中偉登、若林元太、智順、長内美那子 ほか

(5) 「人権啓発ビデオ」活用ガイドの作成

人権が尊重される地域づくりに向けて、市町住民研修や職場研修等で、ビデオ『大切なひと』を有効に活用できるように、活用ガイドを作成し(5,000部)、ビデオを購入した市町や企業に対して、また研修会等において配布した。

(6) 広報媒体等を活用した啓発

① 新聞広告

ア 「人権文化をすすめる県民運動」の告知(令和 5 年 8 月 1 日)

神戸新聞朝刊 1/3 ページ(全 5 段)カラー刷

イ 「人権週間」の告知(令和 5 年 12 月 4 日)

神戸新聞朝刊 1/6 ページ(半 5 段)カラー刷

② ラジオ放送(スポット広告)

人権に関する県内各地の様々な実践活動等を取り上げるラジオ番組においてスポット広告を行った。

ア 放送局 ラジオ関西 毎週火曜日「谷五郎の笑って暮らそう」番組内

イ 放送内容 「人権文化をすすめる県民運動」の周知を図るスポット広告放送

③ ホームページ

各種の人権に関する情報〔法務省、(公財)人権教育啓発推進センター、県及び県下市町の人権啓発の取組や、兵庫県人権啓発活動ネットワーク協議会等の関係機関、協会の事業に関する情報等〕を発信するとともに、県民からの意見や情報をキャッチできる双方向性のあるものにした。

④ 啓発ポスター

「人権文化をすすめる県民運動」の周知ポスターを作成・掲出した。

(作成枚数) 掲示用(7月) 1,300 枚

(配布先等) 市町人権担当部局、神戸地方法務局等の人権ネットワーク関係機関、各県民局等



⑤ 懸垂幕等

「ひろげよう こころのネットワーク」のロゴと、兵庫県人権啓発活動シンボルマークを描いた懸垂幕や横断幕を掲出し、「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間(8月)及び「人権週間」(12月)を告知した。

ア 掲出場所 県庁第一号館、県(総合)庁舎、市町庁舎

イ 掲出箇所 8月 42箇所 64本
12月 17箇所 17本

⑥ 啓発パネル

啓発パネルを県・市町および関係機関・団体に貸し出し、啓発を行った。

⑦ 啓発グッズ

人権啓発グッズとして、クリアホルダー(A4:5,000 枚)等を作成し、人権啓発イベント、研修、のじぎく会館来館者等に配布。

(7) スポーツチームと連携・協力した人権啓発

① 阪神タイガースとの連携・協力

ア 阪神甲子園球場(西宮市)での人権啓発活動

- ・実施日 令和5年5月9日(火)18:00~ 対 ヤクルト戦 公式戦
- ・場所 阪神甲子園球場(西宮市)
- ・来場者数 41,128 人
- ・内容 球場内大型液晶ビジョンでの人権啓発映像(法務省作成)の上映
人権啓発グッズ(クリアファイル)を 6,500 部配布

イ 新聞広告等への写真・メッセージ掲載

- ・新聞広告、人権啓発グッズ(クリアファイル)、ポスター・チラシ、「きずな」への掲載

②人権メッセージ



オリジナルクリアファイル、きずな(7・8、11・12月号)、新聞広告、ポスターにメッセージとロゴ・写真を掲載。

(8) 人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」の募集

人権問題に関する文芸作品の募集を通して、県民の人権意識の高揚を図るとともに優れた作品を表彰し、「作品集」として市町・関係機関等に配付し、啓発を行った。

令和5年度応募作品内訳

部門	小説	随想	詩	創作童話	応募総数
一般 (高校生以上)	20 編	200 編	53 編	12 編	285 編
学齢児童生徒 (中学生以下)	16 編	231 編	68 編	13 編	328 編
合計	36 編	431 編	121 編	25 編	613 編

※過去の応募数(R3:1,680 編、R4:1,415 編)

(9) 「HYOGO人権啓発動画コンテスト」の募集(新)

新たな県民参加型の啓発事業として、人権に関する映像作品を県民(特に若い世代)から募集する。優れた作品については表彰し、映像のネット配信等により研修や啓発の場で活用する。

- ・募集部門 映像(15～30秒以内の動画)
- ・募集期間 7月3日(月)～10月13日(金)
- ・表彰は「のじぎく文芸賞」と同時開催

応募校	9校
応募作品	88作品



(10) 人権ユニバーサル事業の実施(ひょうご・ヒューマンフェスティバルと同時開催)

障害のある人、外国人、性的少数者の人権をテーマとして、民間団体等と連携して、参加型・体験型の啓発活動を「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2023 in あしや」と同時開催した。

①障害のある人

ア ユニバーサルスポーツ体験

ユニバーサルスポーツ体験を通して、障害者や高齢者などの様々な人と共に生きることの大切さについての理解を深めるため、「ボッチャ体験」「卓球バレー体験」「パラスポーツ用具展示」を実施した。

イ 知的・発達障害擬似体験

知的・発達障害者の気持ちを理解しコミュニケーションの難しさなどを学ぶため、「楽しいゲームで困りごと体験」等を実施した。

○ボッチャ体験

○パラスポーツ用具展示

○知的・発達障害擬似体験



②外国人

外国人と共生する、多文化共生社会の実現に向けて、日本を含む、様々な国の民族衣装・楽器等の展示、体験等を実施した。

○子ども多文化共生イベント

○子ども多文化共生センター展

○子ども多文化共生教育フォーラム



③性的少数者

性自認を理由とする偏見や差別をなくすことをめざして、その理解を深めるために、DVD「バースデイ」を上映した。

(11) 大学生等への啓発

①ダブルクリアファイルの配布

障害のある人や外国人への理解を深め、人権意識を高めるための啓発デザインを印刷したダブルクリアファイル(約 5,400 部)を大学生に配布し、啓発した。

配布先:神戸大学、関西学院大学、神戸学院大学、兵庫県立大学、関西福祉大学 他

②大学等と連携した人権講演会等の開催(新)

近年、多様化・複雑化する人権問題への県民(特に若年層)の関心と認識を深めるため、人権に関する講演会や座談会開催の機会を県内の大学生等に提供した。

人権講演会:姫路獨協大学(R6.2.10)、県立農業大学校(R6.2.15)

人権座談会:神戸学院大学(R5.11.24)

○姫路獨協大学

○県立農業大学校

○神戸学院大学



(12) 「ひょうご人権大使」による啓発

- ① 大使 小林 祐梨子 氏（令和5年度就任）
小野市生まれ、加古川市在住。元陸上競技選手、北京オリンピック出場。現在、（一社）日本パラ陸上競技連盟理事、（一社）兵庫県陸上競技協会理事。
- ② 活動状況
ア 「ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2023 in あしや」開会宣言
イ 「令和5年度人権のつどい」開会宣言
ウ 「ひょうご人権ジャーナル きずな 3・4月号」寄稿

(13) 人権啓発企画展示の実施

県立のじぎく会館のロビー等において、啓発パネル展を行った。

- ① 令和4年度人権啓発ビデオ「バースデー」ハートフルメッセージ展(4月～12月)
- ② 県民運動ポスター展(6月～)
- ③ 「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」ポスター展(12月)
- ④ 令和5年度人権啓発ビデオ「大切なひと」ハートフルメッセージ展(12月～)
- ⑤ 令和5年度「人権のつどい」啓発パネル展(12月～)

(14) 市町連絡会議の開催

県・市町との連携強化、相互協力を図り、人権啓発活動を円滑に推進するため市町連絡会議を開催した。

- ① 実施日 令和5年4月28日(金)
- ② 参加 26市12町(全体数:29市12町)
- ③ 内容 各市町における人権啓発の現状と課題、当協会の事業等

(15) ひょうご人権ネットワーク会議による連携

「ひょうご人権ネットワーク会議」に参加する関係機関・団体と連携し、情報交換やイベントに関する情報の収集・発信を行った。

- ① 「ひょうご人権ネットワーク会議」の開催(令和5年12月4日)
- ② イベント情報の収集・発信(年2回)

(16) 情報・資料の提供

- ① 国・都道府県・市町等の啓発資料を収集し、「ふれあいルーム」で展示した。
- ② ビデオ、パネル、図書の貸出を行い、市町・関係団体等の支援を行った。

区分	ビデオ貸出	発行物転載承認	シンボルマーク使用	啓発パネル貸出
R5	407本	71件	1件	4件
R4	306本	71件	3件	5件

3 研究事業

(1) 人権に関する県民意識調査の実施(新)

今後の効果的な人権啓発施策を検討する際の基礎資料等に資するため、5年ごとに行っている「人権に関する県民意識調査」を実施し、人権問題に関する県民の現状認識や意識の動向を分析把握した。

(2) 研究紀要第25輯の作成

さまざまな人権課題について、より多くの方々が活用でき人権啓発活動に役立つ研究紀要を作成した。

- ① 作成部数 1,000 部
- ② 配布先 県、市町、大学、県立学校 等

(3) 人権啓発アドバイザーの活用

学識経験者等をアドバイザーとして委嘱し、ひょうご人権ジャーナル「きずな」の発行やビデオ制作、新聞広告の作成等、啓発事業の実施についての指導・助言を受けた。

- ① 委嘱人数 6 名
- ② 専門分野 女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、外国人、インターネット
広報・報道、人権教育、研修等

4 相談事業

(1) 人権相談の実施（拡充）

専任の相談員を配置し、来館相談、電話や電子メール等により、さまざまな人権に関する相談に応じた(ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、学校・職場での問題発言等)。

また、インターネットによる誹謗中傷等の人権問題について、弁護士による無料電話相談（面談は要予約）窓口開設（R5 年 4 月～）、LGBT 支援団体の専門スタッフによる無料電話相談（面談は要予約）、出張相談会（R5. 11. 19 加古川、R6. 2. 18 神戸）

(2) 啓発活動についての相談等の実施

市町等が行う啓発活動の手法等についての相談等に応じた。

区分	人権相談	研修啓発活動	その他	合計
R 5 年度	338 件(190)	131 件	130 件	599 件
R 4 年度	280 件(168)	169 件	71 件	520 件

※()は、インターネットによる人権侵害相談件数(内書き)

※R5年度人権相談のうち、弁護士相談 61 件(12)、LGBT 相談 51 件(0)件

(3) 保有する図書、資料の整理・更新及び情報発信機能の拡充

保有する図書、資料に関する情報をデータベース化し、平成 28 年4月から「ひょうご人権情報バンク」を稼働させ、利用者の利便性を向上させた。

Ⅲ 収益事業

1 県立のじぎく会館の管理運営事業

県の指定管理者として、兵庫県立のじぎく会館の貸室業務や「ふれあいルーム」、「図書資料室」の整備・運営、施設の維持管理などの管理運営を行った。

(1) 会館利用状況

施設名	室数	利用回数(回)		利用人員(人)	
		R5	R4	R5	R4
大ホール	1	160	142	19,232	13,404
大会議室	1	175	174	6,356	6,261
特別会議室	1	107	59	718	534
中会議室	8	1,181	1,095	11,397	10,846
小会議室	4	303	340	2,040	2,202
合計	15	1,926	1,810	39,743	33,247

(2) 図書貸出し

令和5年度 35 冊 (令和4年度 80 冊)

2 人権啓発ビデオ等販売事業

(1) 人権啓発ビデオの制作

住民学習会や各種研修会等で活用できる学習・教材用啓発ビデオとして、「ネット社会における部落差別と人権～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～」をテーマに「大切なひと」を制作した。

(2) 人権啓発ビデオの販売

人権啓発ビデオの有効な活用を図るため、制作ビデオの販売を業者に委託するとともにインターネット上での配信を希望する企業、団体に向けて、新サービス(ドラスタR5.11)を開始した。

〈直近3年の年間販売状況〉

令和5年度 354 本、令和4年度 414 本、令和3年度 354 本

〈直近3作品の販売状況〉

制作	R5「大切なひと」	R4「バースデイ」	R3「夕焼け」
題材	ネット社会における部落差別と人権～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～	性の多様性を認め合う～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～	ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～
R5販売数	191 本	101 本	29 本
総販売数	191 本	271 本	404 本

(3) 有料駐車場の運用

会館利用者の利便性を確保するとともに、協会事業の充実に資するため、有料駐車場の運用を図る。

IV 管理運営

法人の運営

(1) 評議員会・理事会の開催

協会の運営方針及び内容等を決定し、会務の円滑な推進を図るため、①協会の基本的事項についての意思決定を行う評議員会(評議員 9 名)、②協会の業務執行の意思決定を行う理事会(理事 10 名)を開催した。また、協会事業について専門的立場から審議し提言する企画委員会、専門委員会を開催した。

○ 評議員会・理事会の開催状況

区分	開催日	出席数	議事内容
第 77 回 理事会	令和 5 年 5 月 31 日	9 名 (2 名)	・令和 4 年度事業報告について ・令和 4 年度財務諸表について ・企画委員選任について ・専門委員選任について ・第 25 回評議員会の開催について (報告事項) ・理事長及び専務理事の職務遂行状況について
第 25 回 評議員会	令和 5 年 6 月 27 日	6 名 (2 名)	・令和 4 年度事業報告について ・令和 4 年度財務諸表について
第 78 回 理事会	令和 6 年 3 月 5 日	8 名 (2 名)	・令和 5 年度補正予算について ・令和 6 年度事業計画について ・令和 6 年度予算について ・第 26 回評議員会の開催について
第 26 回 評議員会	令和 6 年 3 月 19 日	6 名 (2 名)	(報告事項) ・令和 5 年度補正予算について ・令和 6 年度事業計画について ・令和 6 年度予算について

開催場所: 県立のじぎく会館

※ () 内は監事の出席数

(2) 企画委員会・専門委員会の開催

○ 企画委員会の開催状況

開催日	出席数	議事内容
令和 5 年 8 月 2 日	13 名	・令和 5 年度事業について ・今後の協会事業の取組について
令和 6 年 3 月 4 日	11 名	・令和 5 年度事業について ・令和 6 年度事業計画(案)について

○ 専門委員会の開催状況

名称	開催日	出席数	議事内容
研修	令和5年 7月26日	10名	・令和5年度研修部事業について ・各市町実施の人権啓発研修について
	令和6年 2月21日	10名	・令和5年度研修部事業活動報告について ・令和6年度度研修部事業計画(案)について ・各市町実施の人権啓発研修報告について ・令和6年度人権啓発ビデオの制作について
啓発・ 研究	令和5年 7月19日	12名	・令和5年度啓発事業について ・人権啓発の課題及び当協会に対する要望について
	令和6年 2月7日	12名	・令和5年度啓発事業活動報告について ・令和6年度啓発事業計画(案)について ・人権啓発の課題及び当協会への要望等について ・令和6年度研究紀要について

開催場所: 県立のじぎく会館

(3) 情報公開等

協会ホームページ等を通じ、毎年度の事業計画、収支予算、事業報告書及び収支決算書等を公開することにより、協会の経営状況、事業内容等の県民への周知に努めた。

(4) 賛助会員の募集

県民や関係機関・団体に、人権尊重の理念への理解をより深め、協会事業に対する支援をいただくため、賛助会員を広く募集した。

(会員数 169: 個人 104、企業・団体 65)